日本医療薬学会 第 90 回公開シンポジウム開催報告書

自治医科大学附属病院　薬剤部　今井　靖

令和 5 年 11 月 18 日（土）自治医科大学医学部教育研究棟講堂（栃木県下野市）において第 90 回医療薬学公開シンポジウム（主催：日本医療薬学会、共催：栃木県病院薬剤師会、栃木県薬剤師会）を現地開催致しました。栃木県・近隣県を中心に 63 名の方にご参加頂きました。地域医療を牽引する人材の育成を本是とする自治医科大学での開催であること、附属病院および薬剤部が来春 50 周年の節目を迎えることを踏まえ「地域医療を“くすり”から支える・課題に挑む」をテーマとし、本学附属病院薬剤部が一丸となって準備を整えました。

特別講演では難病・がん治療への挑戦・克服を主題とし、自治医科大学小児科学教授・とちぎ子ども医療センター長　小坂　仁先生から自治医科大学で取り組んで来られた神経難病の患児に対するアデノ随伴ウイルスを用いた遺伝子治療を主体にご解説頂き、遺伝子治療の将来展望をお示し頂きました。国立がん研究センター中央病院薬剤部長　橋本浩伸先生から、がん研究センターにおける薬剤師業務・がん診療への積極的な参画、さらにご自身が企画から公表まで関与された chemotherapy-induced nausea and vomiting; CINV に対するオランザピンの有効性を示した研究についてお示し頂き、病院薬剤師による臨床課題の抽出と課題解決するという臨床研究参画の重要性をお示し下さいました。

続くシンポジウム 1 では、救命救急・集中治療の現状と薬剤師の関与をテーマとして、自治医科大学　救急部　教授　間藤卓先生に基調講演を行って頂き、栃木県あるいは北関東における救急医療の実情とドクターヘリを活用した広域医療の将来展開、外傷患者の受け入れと外傷外科診療体制の充実、また救急医学の観点から薬毒物分析などにおいて薬学専門家との共働など現在の取組みを示されました。栃木県内の三次救急を担う獨協医科大学病院、済生会宇都宮病院、那須赤十字病院の救急・集中治療に従事する薬剤師の先生方から各施設の取り組みを披露頂きながら意見交換が行われました。

シンポジウム 2 におきましては“地域医療を支える薬剤師業務の現状と展望”を取り上げました。基調講演では国分寺さくらクリニック院長　村田　光延先生からは10年来取り組んでこられた地域での薬剤師・医師との協働とカルテ等医療情報共有の取り組み、つるかめ診療所所長　鶴岡　優子先生からは在宅医療への多職種による取り組みと今後の課題についてご紹介いただきました。引き続いて調剤薬局、病院それぞれの薬剤師の立場、患者サポートセンターにおける看護師の立場からディスカッションを展開して頂き、コミュニティの中での薬剤師の役割のさらなる拡大、地域・病院との間の連携・情報共有の強化など活発な情報共有・意見交換がなされました。会を締めくくるにあたり日本医療薬学会副会頭　百瀬泰行先生から今後の医療薬学における展望を交え温かいお言葉を賜りました。

最後に本シンポジウム開催にあたり日本医療薬学会、学会事務局ならびにご支援、ご協力いただきました全ての方に心より感謝申し上げます。